



福井城と城下町のすがた

●会場／企画展示室・松平家史料展示室

●会期／平成22年9月10日(金)～10月24日(日)

現在、日本の主要都市、例えば全国の県庁所在地などは「城下町」を出発点として発展したものが多く、福井市も親藩福井藩の城下町として発展を遂げました。

しかし、明治以降、城下町は近代都市に変貌し始め、昭和20年の空襲、同23年の震災と水害による被災によって、かつての城下町を彷彿とさせるものは本丸跡などを除いてほとんど消失してしまいました。

本展は、失われてしまった城下町の景観や、城下の賑わいがどのようなものであったかを紹介するものです。

城下町の景観を描いた絵画や古写真、福井城の絵図や屏風、その屋根を彩った瓦、城下の賑わいを描いた屏風や絵巻など、ビジュアルな資料が一堂に会します。

第一章 失われた城下町の景観をみる

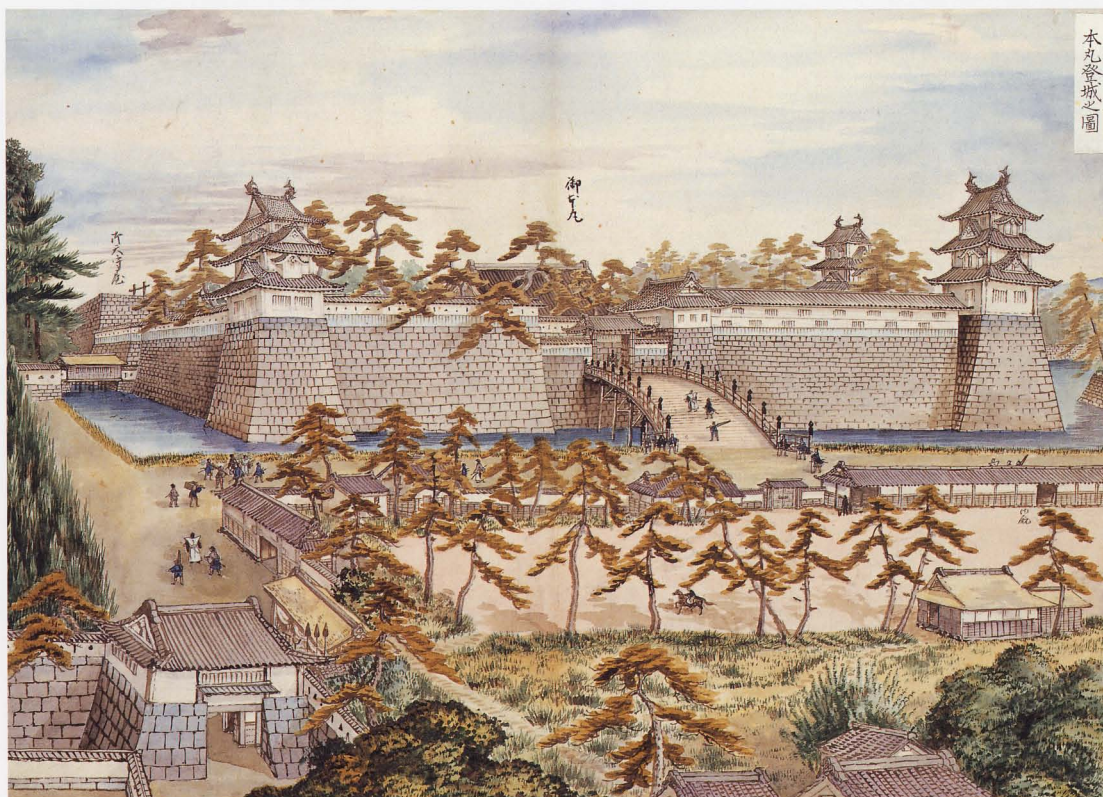
福井城本丸跡などを除いて、現在の福井の都市景観から過去に存在した城下町のすがたを想い描くことはなかなか困難である。しかしながら、江戸後期から明治期に作成された絵画や明治初期に撮影された古写真が残されており、それらの資料を通して失われた城下町の景観を紹介することにしたい。

その中の「福井城下眺望図」は、城下の全体的イメージを捉えるのに便利である。一方城郭や武家屋敷、九十九橋などをスケッチ風に描いた絵は、城下各所の景観を今に伝えてくれている。また、明治初期の城下町の景観や建物を写した古写真はリアルであり、今回愛宕山(足羽山)から九十九橋方面を撮影した古写真を初めて展示した。



九十九橋全景之図 福井温故帖

個人蔵



本丸登城之図 福井温故帖

越葵文庫 当館保管

第二章 クローズアップ「福井城と武家屋敷」

城下町の中核を成すのは城と武家屋敷であり、そこには池や築山をもつ趣のある庭園も存在した。この章では福井城の本丸と天守、上級家臣の武家屋敷、大名と家臣の庭について着目し、絵図や絵画などからその構造や様子を探ることにしたい。

福井城(北庄城)は藩祖結城秀康が修築した城であるが、寛文9年(1669)の城下大火によって城郭の大部分は焼失してしまった。そのため、焼失以前の城については不明な部分が多いが、再建された福井城に関する研究は少しずつ進展をみせている。

例えば、本丸御殿「鶴之間」の襖絵が屏風として発見されたことも成果の一つであり、御殿には大変美しい内部空間が広がっていたことが想像できる。



(右隻)



(左隻)

群鶴図屏風(右隻・左隻) 岩佐勝重筆

福井県立美術館蔵(福井県指定文化財)

第三章 考古学が語る城下町のすがた



城郭のすがたを考古学から見ていこうとすると、例えば石垣や堀の跡、建物の礎石などが頭に浮かぶが、どれも展示しようと思うと難しいものばかりである。そこで今回は城下の屋根を飾った瓦に注目して紹介する。

福井城には笏谷石を加工した石瓦、瓦としては一般的な黒っぽい色をしたいぶし瓦、そして越前焼と同じ技術を応用して発展した赤瓦など様々な種類の瓦が葺かれていた。ここではその様相から福井城の屋根の彩を見ていく。

石鬼瓦破片 越葵文庫 当館保管

第四章 城下町の賑わいをみる

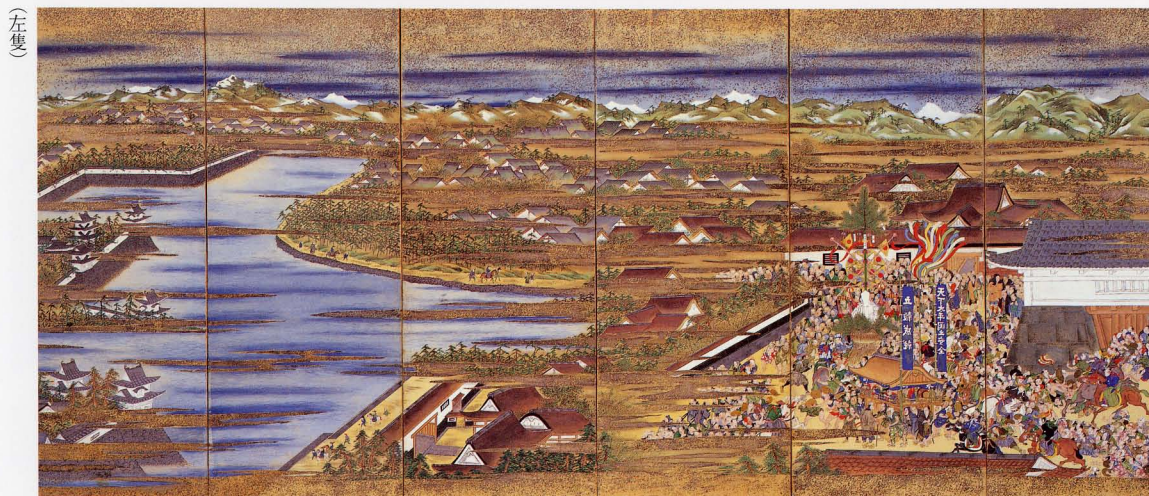
江戸後期から幕末頃の福井城下は全国有数の城下町として発展した。この章では城下町の賑わいやそこで催された年中行事の様子を描いた屏風や絵巻などを展示することで、繁栄する城下のすがたとそこに暮らす人々の文化や風俗について紹介してみたい。

その中でも街道図の屏風は、城下の足羽川に架かる九十九橋とその周辺の街路で人々の往来する様子を詳細に描いており、その繁栄ぶりが窺える。

また、正月14日に催された馬威しの行事を描いた屏風や絵巻は描写力に優れた作品である。画面からは馬を操^{あやつ}って必死に進む武士とその行く手を阻もうとして躍動する民衆の姿や、夥^{おびただ}しい数の見物人の様子^{けんそう}が活写されており、城下の喧騒が伝わってくる。



(右隻)



(左隻)

紙本「馬威」図六曲屏風
(右隻・左隻)
福井県立歴史博物館蔵

愛宕山から九十九橋方面をみている (合成し、画像処理している)



愛宕山から撮影した福井城下古写真

福井市春嶽公記念文庫 当館蔵

No.	指定	資料(作品)名	時代	員数	所蔵先(保管者)
第一章 失われた城下町の景観をみる					
1		福井城下眺望図		一卷	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
2		『THE MIKADO'S EMPIRE』(『皇国』) 初版	1876	一冊	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
3		『グリフィス博士の見たる維新時代の福井』	昭和2年	一冊	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
4		福井城郭各御門其他見取絵		一卷	越葵文庫 当館保管
5		福井城旧景	昭和2年	一帖	当館蔵
6		福井城旧景	昭和2年	一帖	福井県立図書館蔵
7		福井温故帖	明治14年	一帖	越葵文庫 当館保管
8		福井温故帖		一帖	個人蔵
9		愛宕山から撮影した福井城下古写真	(明治初期)	三枚	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
10		福井城下古写真	(明治初期)	五枚	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
11		福井城下古写真	(明治初期)	三枚	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵

第二章 クローズアップ「福井城と武家屋敷」					
12		本丸指図		一枚	松平文庫 福井県立図書館保管
13		御天守絵図		一枚	松平文庫 福井県立図書館保管
14		福井城下絵図	貞享元年	一幅	越葵文庫 当館保管
15		真雪草子	明治16年	一冊	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
16		本丸御建物図		一枚	松平文庫 福井県立図書館保管
17	○	群鶴図屏風 岩佐勝重筆		六曲一双	福井県立美術館蔵
18		酒井屋敷図	嘉永5年	一幅	酒井康氏蔵 当館寄託
19		松平屋敷図		一枚	個人蔵
20		安永年中御類焼以前御屋敷内惣絵図		一枚	個人蔵
21		御泉水指図(複製・原寸大)	文政6年	一幅	松平文庫 福井県立図書館保管
22		御座所御絵図	弘化4年	一枚	松平文庫 福井県立図書館保管
23		三秀園図		一枚	松平文庫 福井県立図書館保管

第三章 考古学が語る城下町のすがた					
24		石鬼瓦破片		一点	越葵文庫 当館保管
25		石鬼瓦		二点	当館蔵
26		立葵紋付石鬼瓦破片		一点	当館蔵
27		石瓦		五点	福井県立歴史博物館蔵
28		いぶし瓦・赤瓦		一五点	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター蔵
29		赤棧瓦		六点	瑞源寺蔵
30		組立式鬼瓦部品		一式	瑞源寺蔵
31		葵紋瓦破片		二点	瑞源寺蔵
32		鬼瓦		一点	瑞源寺蔵

第四章 城下町の賑わいをみる					
33		江戸一福井往還図屏風(左隻)		半双	福井県立歴史博物館蔵
34		福井藩十二か月年中行事絵巻		一卷	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
35		越前国古今名蹟考 五		一冊	松平文庫 福井県立図書館保管
36		国事叢記 十四		一冊	松平文庫 福井県立図書館保管
37		続片簾記 四		一冊	当館蔵
38		慎独斎雜録		一冊	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
39		左義長馬おとし名前	明治2年	一綴	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
40		爆竹調馬之図絵		一卷	越葵文庫 当館保管
41		紙本「馬威」図六曲屏風(右隻・左隻)		一双	福井県立歴史博物館蔵

○は福井県指定文化財

【講演会】	「福井城とその城下」	講師：吉田 純一氏(福井工業大学教授)
	「瑞源寺と福井城」	講師：国京 克巳氏(若越建築文化研究所代表)
■日時／10月3日(日)PM2:00～4:00 ■場所／福井市立郷土歴史博物館 2F講堂 ■定員／60名(先着順・無料)		
【見どころ講座】	担当学芸員による見どころの説明	
	■日時／9月23日(祝)PM2:00～3:30 ■場所／福井市立郷土歴史博物館 2F講堂 ■定員／60名(先着順・無料)	
【関連展示】	「いざ合戦!城を攻略せよ!」(小中学生向け展示)	
	日本の城の秘密を楽しく遊びながら学びます。 ■日時／9月10日(金)～10月24日(日) ■場所／福井市立郷土歴史博物館 2F講堂	

「展示解説シート No.53」平成22年9月10日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1
 電話 0776-21-0489 FAX 0776-21-1489
 担当：印牧 信明 藤川 明宏